飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針 ～第１次～（案）

今後のあり方に関する検討の視点	☆ 特色ある教育をどのように進めるか ☆ 学校施設の配置・枠組はどうあったらよいか

令和6年5月
飯田市教育委員会

方針策定の背景

これからの教育に求められること

◎ 学習者視点からの「主体的、対話的で深い学び」への転換
◎「個別最適な学び（指導の個別化、学習の個性化）」と「協働的な学び」の推進

飯田市の小中学校を取り巻く状況

△ 急速に進む児童生徒数の減少
（H５;11,743人⇨R５;7,574人⇨R11;6,437人）
△ 大規模な改修・改築が必要な学校施設の増加
（R５築50年以上;13/28校⇨R11;25/28校）
△ 地域の担い手や支え手の減少への危惧
（地域人材育成の役割の重要性が増し、地域の特色を生かした魅力ある学校づくりが求められる）

飯田市の教育の特長

H18～　飯田のキャリア教育（生き方教育）
H23～　小中連携・一貫教育
H29～　飯田コミュニティスクール

【教育ビジョン】
地育力による 未来をひらく 心豊かな 人づくり

小中一貫校としての学園構想

学園構想の目的

義務教育課程９年間の学びの「系統性と連続性」を高め、各学園で「教育目標」や「めざす児童生徒の姿」を共有して小中学校教職員が一体となり、飯田コミュニティスクールとして地域・家庭も協働して子供たちの学びを支え、生き方教育でもある飯田のキャリア教育を特色に据えた教育活動を行うことで、**子供たちが生涯にわたって生き抜く力の基礎を、これまで以上にしっかりと、豊かに育んでいく**ことを目的とします

学園のあらまし

＊中学校区の小中学校を**小中一貫教育を行う９つの「学園」**として規定します
飯田東学園・飯田西学園・緑ヶ丘学園・竜東学園・竜峡学園・旭ヶ丘学園・鼎学園・高陵学園・遠山郷学園
＊現在の小中学校の施設を生かした「**施設分離型**」（小学校と中学校が距離的に離れている型）とし、教職員の会議や研修、小中合同授業や活動にはICTの効果的な活用も図って進めます
＊小学校６年間、中学校３年間の教育課程のまま小中一貫教育を行う「**小中一貫型小学校・中学校**」とします

学園における学びの変化と効果

① 小中学生が一緒になって行う授業や特別活動（児童・生徒会活動、行事等）の機会 が増えます
⇒ 子供たちは多様性を認め合い、人とつながりあって共に生きていく力を身につけることができます
② 義務教育９年間の学びの系統性と連続性が高まります
⇒ 子供たちは階段をより確実に上りながら資質・能力を高めることができます
③ 飯田のキャリア教育（地域の人や資源・課題と関わる実体験を通して学ぶ生き方教育）を、９年間の発達段階に即して、順序立てて効果が上がるように行います
⇒ 子供たちは自分自身で生き方を考え、切りひらいていく力の基礎を身につけることができます

学園における教育の特長

① ムトスの学び
・児童生徒の「なぜ？」「どうして？」という「私の問い」と、「～したい」「～になりたい」という「私の願い」を生み出し、子供たちが主体的に学習に向かう状態をつくり出します
② 飯田のキャリア教育
・特別な教科として「飯田のキャリア教育の時間」を設けて、生き方 教育ともいえるキャリア教育を、義務教育９年間の発達段階に即して、順序立てて継続して行います
③ 異年齢集団による学習や活動
・合同授業や特別活動（児童・生徒会活動、行事等）で、小中の垣根を越えた異年齢での学びや活動の機会を充実させ、社会生活において要となる異年齢集団での適応力や協働意識を育みます